



街かど gallery



広川町
中嶋辰己

50才代後半、三十年以上勤めた職場を体調不良で早期退職し、第二の職場を見つけた頃から、60才までには、生涯出来る老後の楽しみをと探していました。

一つは、多くの仲間と楽しく出来ること。もう一つは自分だけでやれることを考えました。

ある日、ふと自分は小学生の頃から絵を描くことが苦手であったことを思い出し、やるならこれだと決め、早速、知人を通じて先生に頼み込み画くようになって二年目になります。まだまだ色の出し方、筆づかいと毎回毎回が楽しい勉強です。

この絵は、高校時代の友達等とスイスに行った時のものです。その時の様子が昨日のように思われます。将来は、大自然の中でその一部を切り取る絵を描けるようになりたいと思っています。

60才の手習い



還暦野球チーム壮球会 代表 横溝彌太郎 75才

県内の9チームでリーグ戦及び町内社会人野球大会、木屋地区野球大会等に参加をしています。68才以上は、久留米のチームと合同チームを編成し県内4チームでリーグ戦をしています。最近では、近県大会等にも参加。

(年間約15試合) 72才以上は県南でチームを編成し近県大会に参加をしています。(年間約10試合位) 週2回、水、土曜日の夕方5時より豊岡グラウンドにて練習をしています。戦力が必要ですので入会希望者大歓迎です。(正会員58才以上、未満は準会員(練習に参加をすれば町内の試合出場できます) 監督 田中 隆 79才 県内最高齢現役。

最近の戦績、5月21日福岡県還暦野球大会では7対8で直方チームに惜敗、7月2日は九州地区還暦野球大会(於直方市)に出場します。



幻の魚を求めて南の磯へ

花冷えも緩み、春本番を実感しながら、釣りバカは南へ下る。何故なら、海中はまだ春遠く、5月初旬でも海面下の水温は15℃〜16℃といったところか。

しかし、我慢の限界ともなれば、「釣れなくても良い」、「竿だけでも出せば満足」等々と、言い訳ばかり(笑)とはいえず、釣れないよりは釣れた方が断然楽しく、嬉しいものだ。そこで思い付くのは南の海域である。今回は鹿児島県西の甕島へ出かけた。熊本の仲間達と阿久根漁港から渡船に乗り、約2時間後瀬々の浦港近くの名礁「早崎のハナレ」へ上礁出来た。滅多に上がれない岩場で甕島でも屈指の釣り場である。

早速海の女神様へ御神酒を注ぎ、安全と少しばかりの釣果を祈願する。水温を測ると17℃である。幻の魚石鯛の適水温は18℃〜22℃といわれるので若干低い、心は踊る。低水温の中で就餌活動が出来るのは、体力のある大型が多いからだ。撒き餌、付け餌兼用の赤貝(正式にはサルボウ貝)を芯割りしたもの、パラパラと撒き、釣り針にも同じものを5〜6個付けて、海面下12m位を探っていると、竿先をブルブルと震わせる。魚の反応は良いようだ。期待が高まる。5〜6投目だった。今までの弱々しいアタリが、ガツン、ガツンと変化した。両肩の力を抜き、竿先を海面に近付けていくと、ギューン!と、竿全体を海中に引き込まれ



そうになる。「今だ!」竿を思い切り良く起こし、リールを巻く。強烈な引きを2度、3度と楽しみ、やがて銀の塊が海面へと姿を現わす。石鯛だ。その後1時間程で同じような60cm弱の石鯛の引きを堪能し、船が来る迄景色を眺めて昼寝をし、帰途についた。帰りの船上から、ナポレオン岩も見え、上々の釣りとなった(笑)。さあ、次は何処へ行こうかな。『磯の旅人』

矢部川源流・杣の里の四季①

オオキツネノカミソリ(ヒガンバナ科)

矢部村釈迦岳登山道8合目(標高約800m)付近で撮影。開花時期は7月中旬から8月上旬。大規模群生地は他に御前岳の西側の「源流の森」の樹齢600年といわれる榊林の巨木の林床に見られる。キツネノカミソリとの違いはオオキツネノカミソリの方はおしべが花弁より長く突出している。この花は彼岸花と同じく他の植物の葉が枯れる冬に葉を茂らせ、他の植物が葉を茂らせる新緑の6月頃に葉は完全に枯れてしまふ。また、球根は毒性がありイノシシは見向きもしないためこのように繁殖が可能である。彼岸花と違って花がオレンジ色をしているためかわいくて愛着を感じる。

(黒木町) 松尾重根

お店紹介 山海関

和食居酒屋として長年営業している山海関が、お昼に季節の野菜を中心とした月替わりの創作ランチを始めました。旬彩膳1000円、味彩膳1300円、焼き鳥丼セット750円〜他。他にも、前日までに予約制のお弁当もやっており、配達もしてもらえらるから嬉しいですね。お昼の集まり事や女子会など、自慢のランチを是非ご賞味下さい。

クラッシーを見て来店された方には、デザートを一品サービスします。

(H23.7月末まで)

■営業時間

【ランチ】11:30〜14:30
(OS14:00)

【夜】17:00〜23:00

■定休日 毎週月曜日
(※10名様以上御予約の場合、営業)



▲写真 味彩膳 ¥1,300

眩き 東を向いて咲く ひまわり

東日本大震災から三ヶ月が過ぎた。活断層が其処彼処に走っている「豆腐の上の国」と呼ばれる日本列島。その上に五十四基の原子力発電が稼働しているという、厳しい現実がある。そして季節は夏、庭のひまわりも、ぐんと背丈が伸びた。

ひまわりは太陽を追って、花が回るといっている。嘘である。実際にはほとんど動かず、花は東を向いて咲く。昨年亡くなった、私の大好きな先輩が、以前に教えてくれた。一回り以上歳の違うその人は、よく笑う私のことを密かに「ひまわり娘」と呼んでいた。もう十分にばさんなのにと恥じらいつつも、嬉しかった。

後に、数千本のひまわり畑を夫と見に行った。ひまわりの大きな顔は、本当に全部見事に揃って東を向いていた。夏の黄色い羅針盤は、息を呑むほど美しかった。

新聞記事に、宮城県南三陸町から気仙沼市までの道路五十キロに、七万粒の種を蒔いて「ひまわりロード」にする計画があると載っていた。花が一斉に咲いたら、どんなに明るむだろう。ひまわりは何故、東を向いて咲くのか、それは太陽が昇ってくる方向だから。私は強くそう思う。ひまわりは日輪草、ひぐるま、希望の花なのだ。そして今、自衛官の次男は原発二十キロ圏内で捜索活動に当たっている。母は幸運を祈っている。

蓉子